

令和6年度 事業報告

I 概要

「高岡市総合計画第4次基本計画」では、「豊かな自然と歴史・文化につつまれ、人と人がつながる『市民創造都市』高岡」というまちの将来像に向け、「歴史・文化」分野において、めざすまちの姿を「暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている」まちとして掲げている。

これを踏まえ事業団では、地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成に向け取り組むとともに、各文化施設等が市民に有効に活用されるよう、事業団独自のノウハウやネットワークを活かし、利用者ニーズに沿った施設管理と事業展開に努め、高岡市の芸術・文化の振興に貢献する。

○ 文化施設等の適正な管理と利用の促進

令和6年度は、万葉歴史館、美術館、博物館、文化芸能館、ミュゼふくおかカメラ館、動物園及び生涯学習センター（ホール施設）の7施設の第5次指定管理協定期間（令和4年度～令和8年度）の3年目であった。

各文化施設等が利用者に安全・快適に施設を利用していただけるよう、施設管理に万全を期すとともに、利用者のニーズに沿った施設管理と事業展開に努めた。

II 各施設の事業内容

1 事務局事業（文化振興事業）

4月・5月に北陸最大の音楽イベント「ガルガンチュア音楽祭」高岡公演を「イギリス、アメリカの音楽」をテーマに開催。北陸ゆかりのアーティスト集団「ガルガンブラス」による勝興寺公演のほか、元劇団四季・飯田洋輔氏を中心とした実力派の若手アーティストによる公演、宮川彬良のおもしろ音楽講座を含め3公演を実施。さらに被災地輪島から運び出されたスタインウェイを勝興寺で聴く復興応援チャリティーコンサートも開催し音楽祭を盛り上げた。また、同じく5月には平成6年度より継続する未来へ繋ぐ舞台鑑賞事業「10才のファーストコンサート」を、市内4年生の全児童を対象に、富山県高岡文化ホールにて1日2公演を開催した。松井慶太氏率いるオーケストラアンサンブル金沢による熱演により、本市が誇る教育普及事業として30回目を実施した。

6月にはコンサートピアノ体験会を2日間実施し、19組の参加者がホールでスタインウェイを奏でる貴重な体験を満喫した。

7月には今年度初事業の県内若手音楽家によるアウトリーチ事業及び「親子で楽しむ0歳児からのコンサート」をスタートした。アウトリーチ事業は、第1回目に弦楽四重奏カルテット『Quartet Molly（カルテット・モリー）』が古府小学校と成美小学校にて音の楽しさを体感するアウトリーチを実施した。「親子で楽しむ0歳児からのコンサート」は、各回定員を大幅に超える抽選申し込みがあり、家族で『Quartet Molly（カルテット・モリー）』の工夫を凝らした演奏を楽しんだ。また、高岡市内の複数合唱団と『Quartet Molly（カルテット・モリー）』が出演する「Amici in TAKAOKA2024～高岡に響くハーモニー～」を開催した。

8月には今年度2回目のコンサートピアノ体験会を2日間実施し、19組の参加者がホールでスタインウェイを奏でる貴重な体験を満喫した。また、新規で地元高岡出身のプロ音楽家に発表の場を提供するリサイタル公演支援事業の第1回目として、「中村大志20周年記念バリトンリサイタル～時の過ぎゆくままに～」を開催した。声楽家・声優とマルチに活躍してきた経験を活かした公演は多くの観客を魅了した。

9月に一般社団法人日本音響家協会北陸支部との共催事業として「舞台スキル講座 舞台音響 はじめの一步」を開催し、初めて一般公募を設けることで地域の舞台技術関係者の技術力向上に努めた。

10月には「デュオ・ナチュレル」公演・アウトリーチ事業を、(一財)地域創造の助成を受けて開催。ソプラノ&ピアノデュオ『デュオ・ナチュレル』により、9・10日に市内小学校2校(伏木小・南条小)を訪問しアウトリーチ事業を実施し、12日には生涯学習センターホールにて本公演を開催した。翌日には今年度2回目の「親子で楽しむ0歳児からのコンサート」と開催した。また、オーケストラアンサンブル金沢との共催事業として『能登半島地震復興応援コンサート《祈り、安らぎ、勇気》高岡公演』を開催し、心癒される演奏が多く観客を魅了した。そして、劇団四季による「こころの劇場」公演を市内小学校6年生児童を対象として開催。富山県高岡文化ホールにて午前・午後の2公演を行い、「ふたりのロッテ」の演劇を鑑賞した。

12月にはホール拠点市民文化活動活性化事業として、落語公演を開催。著名な落語家・桂宮治による公演に多くの市民が高岡市生涯学習センターホールに集い、公共施設利用促進と市内の賑わい創出の一助となった。また、地域で活動する芸能団体や伝統芸能に取り組む青少年の活動支援・発表の場の提供として「高岡青少年伝統芸能ステージ2024 同時開催 高岡青少年華展」を開催。初の試みとしてホール前ホワイエにて生け花を展示し、多くの市民に地域の芸能文化に触れる機会を提供した。

2月には3年目を迎えるTakaoka Opera Project公演として高岡市出身の音楽家、森雅史氏プロデュースによるオペラ「リタ」公演を開催。1月にアウトリーチを森雅史氏の母校である野村小学校にて開催、演目もコメディタッチの親しみやすい演目を選定する等、市民がオペラという世界的な音楽文化に触れる敷居を低く設定し、小編成オーケストラによる質の高い生演奏で公演を盛り上げた。

3月には今年度2回目のリサイタル公演支援事業として「竹内武音楽活動20周年高岡アフタヌーンジャズセッション 東京スイングクインテット with Friends」を開催し、特別ゲストに声優の横山智佐さんを迎えた多種多様な音色が観客を魅了した。また、今年度3回目のコンサートピアノ体験会を2日間実施し、21組の参加者がホールでスタインウェイを奏でる貴重な体験を満喫した。

6年目を迎える高岡駅や御旅屋セリオなど「まちなか」に賑わいを創出する「ユニークベニューTAKAOKA プロジェクト」事業の一つで、毎月1～3回のペースで開催する「ユニークベニュー・オン・まちなかステージ」を実施した。情報発信事業である文化情報誌「iku*cha」は地元企業等からの協賛を得て5月に夏号、8月に秋号を発行し、鋭意PRを進めた。

「第53回高岡市芸術祭」は、高岡市芸術文化団体協議会・高岡市美術作家連盟とともにテーマ「雲外蒼天(うんがいそうてん)」とし、10月から11月にかけて開催した。自主事業では、7月に「夏のわくわくワークショップ」を2回、9月に「青少年わかば公演(第12回たのしい子どもおどりの会)」、9月から「おでかけ公演・講座」を計9講座、「伝統芸能文化鑑賞教室」を11月から12月に計2回開催した。

2 事務局事業(生涯学習事業)

市民の生涯学習及び交流の場を提供し、本市における生涯学習の振興を図るため、さまざまな事業を実施した。

生涯学習センター講座開設事業では、「古里の自然と文化」や「能登半島地震に学ぶ高岡の地形と水の歴史」、「県内唯一の日本百名城・高岡城の魅力」をはじめとした多彩な自主講座や、県内の大学と連携して実施する専門的な講座、小中学生を対象とした能楽講座等を開催した。

リトルウイングにぎわい創出事業では、「SONGS LONG VACATION」を開催し、好評を博した。

3 万葉歴史館事業

万葉歴史館では、『万葉集』や越中万葉をテーマとした展示や学習講座等を開催し、「万葉のふるさと高岡」と『万葉集』の魅力を全国に向けて発信した。

展示機能では、春の特別企画展「万葉集と源氏物語」では、大河ドラマ「光る君へ」の放映にあわせ、「源氏物語」について、万葉集とのかかわりや、富山県ゆかりの国文学者 池田弥三郎が監修した当時の発音による朗読、作品に込められた魅力について紹介した。秋の特別企画展「池田弥三郎の世界」では、国文学者 池田弥三郎の人柄や著作、富山との関わりなどを紹介し、写真や自筆原稿、書簡など多くの新発見資料を展示した。特別展示「第1回 藤原館長が選ぶ スマホで万葉集」では、SNS で投稿された「私の万葉集」の写真の中から、藤原館長が厳選した若い感性あふれる秀作をはじめとした応募作品を、万葉歌と共に展示した。

教育普及機能では、例年実施している高岡万葉セミナーを開催した。学習講座は、館長講座「あそびと万葉集」・「万葉集をよむ」・「古代への招待」・「万葉秀歌を読む」と、出前講座の「はじめての万葉集」(会場 高岡市生涯学習センター)を前年度に引き続き開講した。臨地研修型の講座の「万葉故地めぐり」は、地震の影響により、目的地の状況が不明のため、休止とした。また、富山大学での研究員による万葉集に関する講義等を通して、学生に越中万葉への関心を抱かせ、より親しんでもらえるように取り組んだ。

調査・研究・情報収集機能では、万葉歴史館の研究の成果を紹介する『高岡市万葉歴史館紀要』第35号を出版した。

観光・交流機能では、春と秋の連休に「万葉衣装体験」を開催した。万葉への魅力向上を期して、来館者に対しては、親しみやすくボランティア「和草」(説明員)が、学校や団体客等に対しては、研究員自らが案内をした。

他館・地域等との協力では、ミュージアムコンサート2024-25や、万葉学習エリア 企画展スペースを会場とした企画展「越中国府に勤める人びと ―古代役人の一日―」などが実施され、当館の利用促進につなげた。

4 美術館事業

高岡市美術館が高岡古城公園から現在地に移転して開館 30 周年を迎えることから、これを記念し様々な記念企画展を開催した。

3月から5月にかけては「生誕 140 年 竹久夢二のすべて 画家は詩人でデザイナー」を開催した。本展は、大正ロマンを代表する画家・竹久夢二のマルチクリエイターとしての魅力を紹介する展覧会で、福田美術館(京都・嵐山)が所蔵する貴重なコレクションを 12 年ぶりに大規模公開した。会期中は県出身オペラ歌手によるミニコンサートやワークショップ等を併催し、来場者から好評を得た。

7月から9月にかけては、「ロートレックとベル・エポック PARIS—1900 年」を開催した。ロートレック、ミュシャ、ドガなど「ベル・エポック(よき時代)」と呼ばれた時代のパリに活躍した作家たちの作品約 300 点を展覧するとともに、1900 年のパリ万

国博覧会において日本の事務官長を務めた、高岡市出身の美術商・林忠正に関するコーナーを設け、その功績を紹介した。

10月にはシンポジウム『『こころのインフラ』を守る 私たちができること一ふるさとの文化財を災害から救うために一』を開催した。国立文化財機構文化財防災センター所長による基調講演のほか、阪神淡路大震災、東日本大震災で文化財レスキューに携わったパネリストたちが課題解決について語り合い、多様な文化財をどのように守っていくかを市民とともに考える機会とした。併せて、シンポジウムの関連企画展として、当館が収蔵する地域の伝統工芸作品や地域の作家たちの作品にスポットをあてた『『こころのインフラ』展―地域のコレクションから―』を開催した。

また、定例展として「第63回日本伝統工芸富山展」、「コレクションにみる 高岡の金工・漆芸」、「第30回高岡市民美術展」、「高岡市美術作家連盟展」、「第11回クリエイティブ・たかおか」、「GEIBUN16」を順次開催した。

藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーでは、まんが原画の展示を通じて、幅広い世代に藤子・F・不二雄先生のメッセージを伝え、先生の作品を身近に感じていただき、理解を深めた。

企画展示では、生誕90周年記念藤子・F・不二雄原画展「^{すこしふしぎ}S・Fのエッセンス」(第2期4/2～7/28、第3期7/30～11/27)を、また12月1日からは9周年原画展「まんがに見る食の風景」(前期)を開催した。

5 博物館事業

展示事業としては、昨年度から継続して7月まで館蔵品展「昔の道具とくらし」を開催し、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしについて展示・紹介した。

常設展「高岡ものがたり」(通年開催)では、高岡の歴史・民俗・伝統産業を分かりやすく紹介し、団体見学への展示解説等を行った。常設展の内「お宝コーナー」では、「高岡の春」、「博物館所蔵の國泰寺資料」、「新発見! 最古の高岡御車山絵画資料」、「原本新発見! 前田利長を見舞う徳川秀忠書状」、「高岡の名木・七本杉」を順次開催した。

また、7月末から開始した特別展「開山国師生誕750年記念 國泰寺宝物展」では高岡市太田にある古刹・國泰寺(臨済宗國泰寺派大本山)の開山国師・慈雲妙意(清泉禅師)生誕750年の節目にあわせて、同寺に伝わる古文書をはじめ、書画、調度品等の資料を展示・紹介した。

11月から開始した企画展「映画ポスター・チラシ展」では、当館収蔵の主に戦前期の映画ポスター・チラシ類(神初家資料)、及び市内映画館関係資料を展示・紹介した。

2月に開始した館蔵品展「昔の道具とくらし」は恒例の民具等を展示した。併設展示「被災資料レスキュー展」も同時開催した(次年度7月6日まで開催予定)。

教育普及事業としては、外部講師による郷土学習講座(全3講)や特別展講演会(1回)、伝統産業講習会(1回)のほか、当館職員による古文書講座「初めての古文書教室」(全6講)を開催した。また「呈茶の会 ―博物館の松聲庵で抹茶を楽しみませんか―」(春・秋)、桜の開花時期にあわせた屋上開放イベント「古城公園展望台」の開催のほか、夏休みの自由研究・調べ学習サポート「教えて! 学芸員」も行った。そのほか、講師・委員の派遣協力、出演、監修、制作協力なども行った。

資料収集・保存活動では、高岡の歴史・民俗・伝統産業に関わる資料の収集・保存に努めた。また昨年度に引き続き、國泰寺所蔵資料(伝近藤勇所用 紺糸威二枚胴具足・西郷隆盛書簡)の寄託を受けた。

調査研究活動では、日ごろ博物館に寄贈される資料の調査・整理に取り組んだ。また、「産学官連携に基づいた地域資料継承支援事業」の一環で、高岡市伏木地区の古文書等歴史資料の調査研究活動を行った。加えて「高岡鋳物の製作用具及び製品」の重要有形民俗文化財指定にかかる当館所蔵の鋳物資料調査も引き続き行った。またこれまでに調査が終了した資料台帳の内容を精査し、当館収蔵資料情報のデジタル化を進め、1,447件の資料情報をネット公開している。

6 文化芸能館事業

諸室の貸与では、13室の貸室があり、3階の能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能に活用されている。

また、1・2階の研修室等では市民の学習・文化活動・芸能活動・各種会合等で利用されている。

7 ミュゼふくおかカメラ館事業

当館は、クラシックカメラの保存・活用並びに写真文化の振興・発展を図り、カメラ文化の知識と理解を深める生涯学習の拠点として事業を展開している。

企画写真展事業では、春夏秋冬に多彩な企画を実施している。4月～6月の春の季節には、「中井精也写真展 ゆる鉄絶景100」を開催した。本展は今春の北陸新幹線敦賀開業に合わせて、全国的知名度のある鉄道写真家・中井精也氏の撮影した四季折々に変化する日本の美しい鉄道名風景100点を一堂に展示したものである。ポスターには氷見線・雨晴海岸が掲載された。

6～8月の夏の季節には、「前川貴行写真展 生き物たちの地球」を開催した。本展は夏休み期間に家族で来館できる企画を目指し、動物写真家として第一線で活躍する前川貴行氏の撮影した銀写真プリントの大型パネル95点を展示した。子ども新聞に連載中のテーマによる展示構成で、トークショーでも写真家の感じた動物との関わりや撮影秘話が紹介され、幅広い年齢層の来場者が耳を傾けた。

9～10月の秋の季節には、「鈴木一雄写真展 聲（こえ）をきく」を開催し、紅葉のお出かけ時期に先駆けて、写真愛好家たちに絶大な人気を誇る自然写真家・鈴木一雄氏の撮影した美しい風景写真81点を展示した。本展は、鈴木氏が長年取り組んできた「聲」シリーズの集大成でもあり、裏磐梯や尾瀬などの日本の原風景をそのままに写す氏の自然や写真に向き合う姿勢にも共感を得た。

11月～令和7年1月の冬の季節には、タレントや俳優のポートレート写真の第一人者として知られる「野村誠一写真展 A Half Century」を開催し、50年の仕事と、仕事を離れて世界観を開放した写真表現をあわせて展示し、カメラ館周辺でフォトウォークを行うなど写真家のYouTube番組なども通じて全国的な発信力をもって告知を展開した。

常設展示事業では、「すてきなカメラデザイン展」を継続し、11月からは「クラシックカメラの世界展」、2月からは「写真の20世紀ーカメラがとらえた歴史」を開始し、それぞれ約150～200点の収蔵品を展示。誰にでも親しみやすいテーマと分かりやすい切り口でカメラを紹介している。そのほか、モニターでクラシックカメラの歴史や変遷などを紹介する映像番組の上映や、大型図解パネルなどを常置し、触れるクラシックカメラの体験コーナーも好評である。また、昨年に続いてカメラをテーマにした夏休みクイズラリーを実施し、子どもたちがカメラに親しむ機会を提供した。

昨年導入して好評だった年間パスポートは継続し、9月16日まで販売した。昨年の2倍に近い327件を売上げ、リピート観覧に役立てていただいた。

8 古城公園動物園事業

動物園では飼育展示のほか、特別展、動物園だよりの発刊等の事業を実施した。

ウサギやテンジクネズミ等の小動物に直接触れることができる「ふれあい広場」の

事業については、園児等多数の来園者から好評を得ている。

レクリエーション施設としての機能はもとより、情操教育の場及び環境保全への貢献のために、動物愛護の啓発や情報発信、園内での繁殖に努めた。

9 生涯学習センター（ホール施設）

403席を有する劇場ホールの貸館業務を実施し、音楽公演や講演会などの生涯学習利用や、企業の研修会利用など、多くの方に利用されている。また、SNSでの情報発信を積極的に行い、高岡市生涯学習センターホールの周知に努めた。

III 評議員会に関する事項

1 審議内容

(1) 第27回評議員会 令和6年4月1日開催(書面によるみなし決議)		
議案第1号	理事の選任について	可決
議案第2号	評議員選定委員（評議員）の選任について	可決
議案第3号	公益財団法人高岡市民文化振興事業団常勤役員の報酬等に関する規程の改定について	可決
(2) 第28回評議員会 令和6年5月31日開催		
報告第1号	令和5年度事業報告について	承認
議案第4号	令和5年度決算の承認について	可決
議案第5号	理事の選任について	可決
議案第6号	監事の選任について	可決

2 評議員の異動状況

令和6年5月31日	評議員	小林	福美	就任（再）
	評議員	晒谷	和子	就任（再）
	評議員	菅野	克志	就任（新）
	評議員	関	永文	就任（再）
	評議員	高橋	誠一	就任（再）
	評議員	竹内	浩子	就任（再）
	評議員	野崎	昭雄	就任（再）
	評議員	広野	薫	就任（再）
	評議員	山口	伸一	就任（新）
	評議員	山崎	健	就任（再）
	※任期：令和10年5月定時評議員会の終結の時まで			
	評議員	荒井	公夫	退任

IV 理事会に関する事項

1 審議内容

(1) 第66回理事会 令和6年4月1日開催(書面によるみなし決議)		
議案第1号	専務理事（業務執行理事）の選定について	可決

- | | | |
|-------------|--------------------------|----|
| (2) 第67回理事会 | 令和6年5月14日開催 | |
| 議案第2号 | 令和5年度事業報告の承認について | 可決 |
| 議案第3号 | 令和5年度決算の承認について | 可決 |
| 議案第4号 | 第28回評議員会の招集について | 可決 |
| 報告第1号 | 代表理事と専務理事の職務執行状況について | 承認 |
| | | |
| (3) 第68回理事会 | 令和6年5月31日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第5号 | 理事長(代表理事)の選定について | 可決 |
| 議案第6号 | 副理事長(代表理事)の選定について | 可決 |
| 議案第7号 | 専務理事(業務執行理事)の選定について | 可決 |
| | | |
| (4) 第69回理事会 | 令和6年12月19日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第8号 | 令和6年度補正予算(第1号)の承認について | 可決 |
| | | |
| (5) 第70回理事会 | 令和7年3月27日開催 | |
| 議案第9号 | 令和7年度事業計画の承認について | 可決 |
| 議案第10号 | 令和7年度予算の承認について | 可決 |
| 議案第11号 | 第29回評議員会への議案提出について | 可決 |
| 報告第2号 | 代表理事と専務理事の職務執行状況について | 承認 |
| | | |
| (6) 第71回理事会 | 令和7年3月31日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第12号 | 令和6年度補正予算(第2号)の承認について | 可決 |

2 理事、監事の異動状況

- | | | | |
|---------------|------|--------|-------|
| (1) 令和6年4月1日 | 理 事 | 福田 直之 | 就任(新) |
| | 専務理事 | 福田 直之 | 就任(新) |
| | | | |
| (2) 令和6年5月31日 | 理 事 | 今川 美千子 | 就任(新) |
| | 理 事 | 小栗 久雄 | 就任(再) |
| | 理 事 | 角田 悠紀 | 就任(再) |
| | 理 事 | 武山 良三 | 就任(再) |
| | 理 事 | 氷見 哲正 | 就任(再) |
| | 理 事 | 福田 直之 | 就任(再) |
| | 理 事 | 藤田 辰昭 | 就任(新) |
| | 理 事 | 藤原 茂樹 | 就任(再) |
| | 理 事 | 二口 真 | 就任(再) |
| | 理 事 | 二塚 英克 | 就任(再) |
| | 理 事 | 村上 隆 | 就任(再) |
| | | | |
| | 監 事 | 小竹 秀子 | 就任(再) |
| | 監 事 | 柳原 隆 | 就任(再) |
| | | | |
| | 理事長 | 角田 悠紀 | 就任(再) |
| | 副理事長 | 氷見 哲正 | 就任(再) |
| | 専務理事 | 福田 直之 | 就任(再) |

※理事の任期：令和8年5月定時評議員会の終結の時まで
※監事の任期：令和10年5月定時評議員会の終結の時まで

理 事	辻	やす子	退任
理 事	蓑	厚行	退任

(3) 令和7年3月31日	理 事	二塚	英克	辞任
	監 事	柳原	隆	辞任